

塩原温泉の活性化プロジェクト

那須塩原市
山口祥典様 石川敦史様

18班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

飯島胡桃 宇賀持凌
田中空乃 保智友輔
剣吉辰哉 青柳駿

背景と目的

塩原温泉は、以前は温泉街として栄えていた町である。その塩原温泉には現在でも、温泉をはじめ食べ物や文化・歴史など多くの魅力が存在する。しかし、塩原温泉に高校がないことや駅からのアクセスが悪いことなどが原因で、若者の地元離れが顕著になっている。そのことから、高齢化が進み、後継者が不足し、門前地区では空き店舗や空き家が増加していることが、課題となっている。

そこで、塩原温泉の現状を知り、課題を明らかにしたうえで、塩原温泉の活性化を図るための提案を行うことを目的とした。



塩原温泉の様子

方法と分析結果

1st Cycle

□塩原温泉の現状把握

・地域を散策し、地域の方からヒアリングを行う。

□現地の方からの聞き取り

・「みんなの蔵TE0」にて塩原温泉の現在に至るまでの話を伺う。

・**空き家**
・**少子高齢化**

⇒ などの課題があることが明らかに。

一方で、新たに**若者のコミュニティが形成**されつつあることが明らかになった。



みんなの蔵TE0の内観

2nd Cycle

□移住についての聞き取り調査

・那須塩原市の移住の現状が明らかにできるように事前に作成した質問リストを中心に、
・移住促進センターの職員さん
・実際の移住者(2人)に話を伺う(ZOOM)。

・**空き家:印象が悪い、維持管理が難しい**
うまく活用されていない

⇒ **移住促進制度:知られていないと同時に、利用条件も厳しい**

・**地域コミュニティ:**
観光業の人は開放的で温かい
などのことが明らかになった。

質問	回答
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	塩原温泉にあるレストランを引継いだため、移住先探しに悩むことはなかった。
移住情報の取得方法	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。
移住の理由が塩原温泉を選んだ理由	移住先探しに悩むことはなかった。

▲ 質問リストの例

3rd Cycle

□空き家の現状把握

・地域を散策し、地域の方からヒアリングを行う。
・塩原温泉に赴き、那須塩原市観光局の方から空き家を案内してもらい、外観から空き家を調べる。

□空き家マップ・空き家カルテの作成

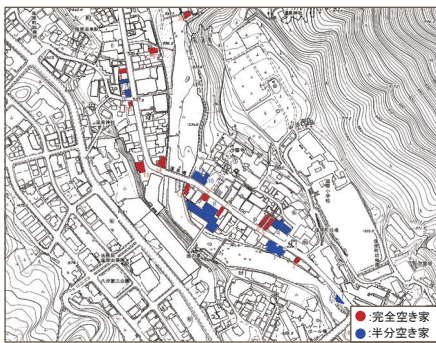
・空き家を外観の状態や現地の人から利用可能か判定し、空き家マップ・空き家カルテを作成する。

□活用できる空き家の検討

・「旅館職員や地域住民、移住希望者をつなげる空間」として活用できそうな空き家を探す。



現地調査の様子



▲ 塩原温泉 門前・古町地区の空き家マップ

塩原温泉の中心である門前地区の空き家の調査の結果、

・完全に空き家である場合(赤丸)

・半分が空き家である場合(青丸)

= もともとは店舗兼住居だったので住居部分のみを現在使用しているパターン

の2つの場合があることが分かった。



▲ 空き家カルテの例(A-14)

空き家マップにプロットした建物のうち、完全に空き家である8軒の建物について空き家カルテを作成し、「旅館職員や家主、移住希望者をつなげる空間」として活用できそうな空き家について検討した結果、

「みんなの家 TASUKE」(A-14)が活用できそうだという結論に至った。

提案

改修コンセプト:「旅館職員や地域住民、移住希望者をつなげる空間を」

みんなの家 TASUKEは、塩原温泉の中心である門前・古町地区の中央に位置しており、地域の人が集まって交流するには最適な場所である。

□「カフェ・バー」

地域の人たちが地元の食を通して交流する機会を得ることができる。

□「お試し宿舎」

移住希望者がこの地区に多い店舗兼住居の使用感や塩原温泉の住民の雰囲気や、宿泊することによって事前に「お試し」で感じることができる。また、移住希望者以外の塩原温泉の住民も借りて住むことができる。

□「共用キッチン」

ものがたり館の野菜直売場で購入した野菜や溪流釣りで釣った魚などを共用キッチンで調理することで、地元の食の魅力を知ってもらうと同時に、地元食材の消費量の増加を促す。



みんなの家 TASUKE

3つの要素を複合することで、「旅館職員や地域住民、移住希望者をつなげる空間」を作り出す。